

高山茶釜500年の伝統 技術を受け継ぐ

竹茗堂 左文

奈良県

生駒市高山町6439-3

1940年(昭和15年)設立

0743-78-0034

<http://www.chikumeido.com>



代表者

久保 昌城

(号：左文)

全て手作り、熟練された職人による茶釜は業界トップ。茶釜を通じて日本文化・感性を世界に発信。

茶釜の里、奈良高山

地元文化の伝承に貢献している。

奈良県生駒市高山町は全国唯一の茶釜の里として知られている。そのはじまりは室町時代中期までさかのぼることができ、以来一子相伝の技としてこの地で伝承されてきた。その生産量は現在では国内シェア90%を占める。当代当主は24代目。

日本文化を表現する茶釜

茶道は日本を代表する伝統文化の一つであり、優しさ、思いやりの精神を育むもの。そして、茶釜は茶道に欠かすことのできない重要な道具の一つである。茶道の流派、用途により生産する茶釜の種類は大きくわけて120種にもものぼる。原材料が竹なので、竹の種類、その状態により、さらに細かく分類できる。厳密に言えば、ひとつひとつ全部違うはずであり、このことは、そのまま、茶釜の作りかたにもあてはまり、最初に十六等分に割るが、竹の状態を見て刃の入れかたをひとつひとつ変えている。

外国で作られたものとは異なり、当主自らの製作指導によって熟練された職人の手で作られる茶釜は竹の性質の全てをほぼ完璧なまでに引き出しており、その造形美は使う人の感性を呼び起こす。日本の茶道文化の一翼を担い続けている。

「感性 kansei-Japan Design Exhibition」での展示

平成20年12月フランス・パリのルーブル宮殿 装飾美術館において「感性 kansei - Japan Design Exhibition」(日本のデザイン展)が開催され、104点が展示、竹茗堂の左文作茶釜(茶笥)6点も選ばれ、展示された。



ルーブル宮殿 装飾美術館にて